

大 門 正 幸*

OHKADO Masayuki *



「生まれ変わり」事例としての『勝五郎再生記聞』

The Rebirth of Katsugoro as a Case of Reincarnation Type

1. はじめに

サンフランシスコ生まれのジェームズ・ライニンガー (James Leininger) の激しい夜泣きが始まったのは、2000年5月、2歳になったばかりのことであった。¹⁾ 両親を心配させる夜泣きが一月ほど続いた6月のある日、なだめる両親に対し、ジェームズはこう説明した。“Air plane crash on fire, little man can't get out.” (「飛行機が炎上、脱出不能。」) この時のジェームズは、いくつかの単語を並べてなんとか自分の意思を伝えることができるようになったばかりであった。それだけに、真に迫ったジェームズの台詞は両親を驚かせた。しかし、それ以上に驚きだったのは、本当に燃えさかる飛行機に閉じ込められているかのような、手足をばたつかせ、身悶えるジェームズの姿であった。

その後ジェームズは次々に自分の「過去生」について語るようになった。自分は第二次世界大戦時に米軍のパイロットだったこと。現世と同じジェームズという名前であったこと。硫黄島海戦で日本軍に撃墜されて死亡したこと。乗っていた飛行機はコルセアで、発着はナトマと呼ばれる空母から行っていたこと。ジャック・ラーセン (Jack Larsen) という戦友がいたこと。などである。ジェームズの語る内容は、彼の飛行機への異様な執着、第二次世界大戦時の飛行機に関する子供とは思えない博識と照らし合わせる

と、単なる想像の産物とは思えないものであった。

ジェームズの父親のブルース (Bruce) は、精力的な調査によってジェームズの語った内容が全て事実であることを明らかにし、第二次大戦で死亡した、ジェームズ・ヒューストン・ジュニア (James Huston Jr.) という「過去生」の人物を特定した。のみならず、故ジェームズ・ヒューストン・ジュニアを知る人物の何人かは、幼いジェームズと話をするうちにジェームズ・ライニンガーがジェームズ・ヒューストン・ジュニアの生まれ変わりであることを確信した。中でもジェームズ・ヒューストン・ジュニアの姉のアン・ヒューストン・パロン (Anne Huston Barron) が幼いジェームズを弟の生まれ変わりに間違いないと認めている点は重要であろう。

2. 子供が語る「過去生」の記憶の科学的研究

テレビ番組で大きく取り上げられ、アメリカ中にセンセーションを巻き起こした、このジェームズ・ライニンガーの事例は、日本でも取り上げられ、広く知られるようになった。²⁾

しかしながら、ジェームズ・ライニンガーのような「過去生」を記憶している子供の例は、テレビ番組のセンセーショナルな取り上げ方が示唆するようなまれなものではない。それどころか、数多くの同様な事例が既に科学的研究の結

*中部大学国際関係学部外国語教室

果として報告されているのである。

「過去生」の記憶を持つ子供の調査・研究は故イアン・スティーヴンソン (Ian Stevenson) という一人の知的巨人の手によって確立された。³⁾ 1918年生まれのイアン・スティーヴンソンは1943年にカナダのマギル大学医学部を首席で卒業し博士号(医学)を取得した後、15年ほど医学的研究に従事、1957年には39歳という異例の若さでヴァージニア大学精神科の主任教授に就任した。翌1958年、超常現象にも強い関心を寄せていたスティーヴンソンは、アメリカ心霊研究協会 (American Society for Psychical Research) が募集した懸賞論文に、「いわゆる前世の記憶による死後存続の証拠」(The Evidence for Survival from Claimed Memories of Former Incarnations) という題目の論文を提出し、見事当選した。これ

をきっかけに前世の記憶を持つ子供の調査に乗り出し、40年以上に渡って世界を駆け巡り、2,500を超える事例を収集した。現在、これらの事例はスティーヴンソンの衣鉢を継ぐジム・タッカー (Jim Tucker) を中心にコンピューターで可読なデータベース化が進められている。⁴⁾

3. 江戸時代の「生まれ変わり」事例

スティーヴンソンが「過去生」の記憶を持つ子供の研究を始めることになった大きなきっかけの一つに、日本人の「生まれ変わり」事例が含まれていることはあまり知られていない。1958年のアメリカ心霊研究協会の懸賞受賞論文でスティーヴンソンは世界中の「過去生」の記憶を持つ子供の記録を収集し、それらを表1のように分類した (Stevenson (1960: 59))。

表1 「過去生」の記憶に関する記録の分類

記憶に含まれる情報	事例の数
1. 記録に超常的な要素は含まれていない場合 a) 「過去生」の人格の实在が確認できない場合 b) マリーアントワネットのように「過去生」の人格がよく知られた人物であり、通常的手段で情報を獲得した可能性がある場合 c) デジャ・ヴュのように、「なんとなく馴染みがある」程度の記憶である場合	数百の記録有
2. 通常的手段で獲得したとは思えない時代や場所に関する記憶を持つ場合 a) 場所に関する超常的な記憶を持つ場合 b) 過去の出来事あるいは人物に関する超常的な記憶を持つ場合	19例 8例 合計 27例
3. 当人が生まれる前に死亡した、具体的な人物や場所、出来事が特定できる場合 a) 事実と一致した記憶が5項目以下の場合 b) 当人と「過去生」の人格が同じ家族内に属するため、「過去生」の記憶の獲得が通常的手段でなされた可能性がある場合 c) 当人と「過去生」の人格の間に血縁関係がなく記憶と一致した事実が6項目以上の場合	11例 5例 28例 合計 44例

これらの事例の中で生まれ変わりの存在を最も強く示す証拠となりうるのは、言うまでもなく、3cである。問題の論文の中では、ステイヴンソンは、3cの具体例として、5つの事例を紹介しているが、その筆頭に挙げられているのが、日本人、勝五郎の事例である。⁵⁾

江戸時代後期、中野村(現八王子市東中野)に住んでいた、文化三(1806)年生まれ少年勝五郎は、8歳の時、自分の「過去生」の話をするようになった。それによれば、自分がかつて中野村から約一里半(6キロメートル)ほど離れた程久保村(現日野市程久保)の久兵衛とおしづの間に生まれた藤蔵という子供だったとのこと。また、父親の久兵衛は小さい時に死んでしまったが、その後、半四郎という人が父親となり可愛がられた。しかし、自分は6歳の時に死んでしまったとのことであった。勝五郎の話を聞いた両親は到底信じ難いと思い、そのままにしておいたが、添い寝の度に「程久保の両親に逢いたい」と訴える勝五郎の言葉を忘れることのできなかった祖母が村の老女の集まりで程久保村の久兵衛の話を持ち出してみたところ、勝五郎の語った内容が多く点で事実と一致することが分かった。その後、程久保の家に行きたいという勝五郎の願いは強くなる一方だったので、ついに祖母は勝五郎を連れて程久保村に足を運んだ。程久保村では、勝五郎は難なく「過去生」の家を見つけ、「以前はあの屋根はなかった。あの木もなかった」などと藤蔵の死後変化した点について正確に指摘した。勝五郎の様子に程久保の家のもの達は勝五郎を藤蔵の生まれ変わりであると認め、勝五郎の家と半四郎の家は親類の縁結びをすることとなった。

この勝五郎の物語は広く知られるところとなり、文政6(1822)年、愛児露姫を無くしたば

かりの文人大名、池田冠山は、中野村を訪れ勝五郎と面談し『勝五郎再生前世話』としてまとめている。さらに、冠山に遅れること2ヶ月、国学者平田篤胤も勝五郎を呼び寄せ、詳しい調査を行った上で『勝五郎再生記聞』を書き記している。⁶⁾

この勝五郎の話はラフカディオ・ハーン(Lafcadio Hearn)によって“The Rebirth of Katsugoro”として紹介され、海外でも知られるようになった。⁷⁾イアン・ステイヴンソンが「過去生」の記憶を持つ子供の事例として最初に注目したのもラフカディオ・ハーンによって紹介された、この、勝五郎の物語なのである。

なお、ハーン自身は自著を1832年から1835年の間に作成されたChin Setsu Shu Ki(『椿説集記』)の訳であると述べているが、同書の内容は確認されておらず、出典に関する文献学的研究が必要などころである。⁸⁾

4. 「過去生」の記憶の強さ尺度による勝五郎の事例の分析

イアン・ステイヴンソンの弟子であるジム・タッカーは、子供が語る「過去生」の記憶の強さを測る尺度、事例強度尺度(strength-of-case scale, SOCS)を提案している。ここではこのSOCSに従って勝五郎の事例を分析し、現在の分析尺度において勝五郎の事例がどの程度強力なものと判定されるかを見る。

SOCSは2,500を越える調査事例のうち、Tucker(2000)の執筆時にコンピューターへの入力完了していた799例の分析に基づいて、尺度としての妥当性が確認されたものである。SOCSは22の項目を含み、それらは大きく「母斑・先天性欠損」「前世に関する言及」「ふるまい」「死亡人物との関連」の4つの範疇に分けられて

表2 SOCSによる勝五郎の事例の分析

項 目	得 点
母斑・先天性欠損	
1. 死亡人物の致命傷と一致	
医療記録による実証	0/8
死亡人物の友人または親族により実証	0/5
本人による主張のみ	0/2
2. 死亡人物の致命的ではない傷と一致	
医療記録による実証	0/5
死亡人物の友人または親族により実証	0/3
本人による主張のみ	0/1
3. 死亡人物の病気との一致	
医療記録による実証	0/4
死亡人物の友人または親族により実証	0/2
本人による主張のみ	0/1
過去世に関する言及	
4. 本人が過去世を記憶していると主張しているか	
している	0/0
しておらず、他の証拠にのみ基づいている	0/-2
5. 過去生における場所や人々について語り、それらが過去生人格の死亡後変化している	5/5
6. 過去生に関する発言で実証されたものから誤りであったものを引いた数	
>20	0/8
11-20	0/5
6-10	3/3
1-5	0/1
0	0/0
-1(-5)	0/-2
-6(-10)	0/-5
<-10	0/-8
ふるまい	
7. 過去生と関係する、異常な食事上の好み・嫌悪	0/3
8. 過去生と関係する、異常な食事作法	0/3
9. 過去生と関係する、異常な嗜好品の好み	0/3
10. 過去生と関係する、異常な好み	0/3
11. 過去生と関係する、異常な技術や才能	0/3
12. 過去生と関係する、異常な敵意	3/3
13. 過去生と関係する、異常な恐怖症	0/3
14. 異なる性と関係する行動(過去生の人格と性別が異なる場合)	
友人または血縁者による報告	0/3
本人と研究者のみによる報告	0/3
15. 過去生の家族または住居に戻りたい、または戻りたくないという欲求	
戻りたいという強い欲求	3/3
戻りたいという弱い欲求	0/1
中立的	0/0

戻りたくないという弱い欲求	0/1
戻りたくないという強い欲求	0/3
16. 遊びを通して表される、過去生での記憶	0/3
死亡人物との関係	
17. 死亡人物の特定	
学術的な素養のある調査者による	3/3
それ以外の調査者による	0/3
家族または友人による	0/1
18. 事例が明らかになるまでの二つの家族の関係	
緊密な関係、あるいは同一家族内	0/-2
わずかな関係	0/-1
お互いに知ってはいたが無関係	0/0
お互いに全く知らなかった	5/5
19. 本人の生誕地と死亡人格の主な居住地(km)	
0.0-1.5	0/0
1.6-24.9	2/2
25.0以上	0/5
20. 本人と死亡人物との社会的地位の相違	
わずか	1/1
中程度	0/2
大きい	0/3
21. 本人と死亡人物との経済的地位の相違	
わずか	1/1
中程度	0/2
大きい	0/3
22. (カースト制に関するもののため割愛)	
合計点	26

いる。この尺度に従って、平田篤胤の『勝五郎再生記聞』に基づいて勝五郎の事例を分析した結果が表2である。

なお、「得点」については、斜線の右側にそれぞれの項目に与えられた配点を、左側に勝五郎の事例に関する得点を記してある。たとえば、勝五郎の事例では母斑や先天性欠損（項目1～項目3）は報告されていないので、数値は「0/8」「0/5」「0/2」となっている。また、項目6に関する事項は以下の9項目である：(i) 過去生で住んでいた村の名前（程久保村）、(ii) 父親の名前（久兵衛）、(iii) 継父の名前（半四郎）、(iv) 父

親の死亡、(v) 母親の名前（おしづ）、(vi) 過去生での名前（藤蔵）、(vii) 過去生での死亡年齢（6歳）、(viii) 過去生での父親が死亡した時の自分の年齢（2歳）、(ix) 過去生の家の様子（三軒並んだ真ん中の家で、裏口から山に続いている）。

SOCSによって799例を分析したTucker (2000) は、最高値、最低値、平均値はそれぞれ49、-3、10.4であると報告しており、勝五郎の事例の得点26は比較的高い位置に属する。さらに、勝五郎の事例の調査者である平田篤胤がもしSOCSを意識して調査を進めていれば、項目6や7～11、13の数値はさらに上がった可能

性が高い。これらのことを考慮すれば、勝五郎の事例は非常に有力な「生まれ変わり」を示唆する事例であると言えるであろう。

5. まとめ

イアン・スティーヴンソンは、40年に渡る調査研究の結果、インド、タイ、ビルマ、レバノン、トルコ、スリランカ、イギリス(イングランド、スコットランド、ウェールズ)、フランス、ドイツ、オランダ、イタリア、オーストリア、ポルトガル、ハンガリー、アイスランド、フィンランド、アメリカ、カナダといった世界中の国々の事例を報告している。⁹⁾ にも関わらず、日本人の事例はひとつも報告されていない。これは、スティーヴンソンが「過去生」の記憶を持つ子供の研究を始めるきっかけの一つになったのが勝五郎の事例であることを考えると、大変残念な状況である。

しかし、池川明氏の一連の「胎内記憶」の研究が一つの契機となり、「過去生」の記憶を持つ子供の存在が明らかになりつつある。¹⁰⁾ 筆者自身も池川氏の紹介により、3つの事例を調査中である。現在はまだ「過去生」の人物が特定されていない「未決例」であるが、子供が「過去生」について語ることは異常な事態ではないと広く認知されるようになれば、やがて日本でも「既決例」が見つかるのではないかと思う。また、「過去生」について語る子供が両親や周り、時には両親の相談を受けた医師やカウンセラーによって「不当な」扱いをされることも減っていくのではないかと思う。本稿では、日本における、子供の「過去生」記憶研究の今後の広がりを期待しつつ、江戸時代の勝五郎の事例を現在の理論的枠組みに基づいて分析した。

注

- 1) ジェームズのエピソードについては、Leininger and Leininger (2009) を参照。
- 2) 2009年10月28日放映、NTV『ザ!世界仰天ニュース 胎児の持つ記憶SP』
- 3) イアン・スティーヴンソンが没した翌2008年、スティーヴンソン自身が設立に大きな役割を果たした科学探究協会 (Society for Scientific Exploration) はその機関誌 *Journal of Scientific Exploration* の第22巻1号をスティーヴンソンの追悼号とした。スティーヴンソンに関するここでの記述は、この号に掲載されたTucker (2008) による。
- 4) 事例のデータベース化については、Tucker (2005) を参照のこと。
- 5) 勝五郎の物語については平田 (2000) を参照。
- 6) 池田冠山が勝五郎と面談するようになった経緯については、小谷 (1990) を参照。
- 7) Hearn (1897) 参照。
- 8) ラフカディオ・ハーンが用いた原典について、染村 (1996) は、「私は、この二写本 [県立鳥取図書館所蔵の『冠山老公筆記 ほどくほ小僧前世話』と早稲田大学附属図書館所蔵の「兒子再生前世話」] 資料を小谷氏 [小谷恵造氏] から頂いて、ハーンの「勝五郎再生記」と照合した結果、ハーンの作品の原典となるものは、鳥取図書館蔵『冠山老公筆記 ほどくほ小僧前世話』であろうと判断した」と述べている。しかしながら、ハーンの記述の内容を詳しく分析した北村 (2008) はハーンが用いた『椿説集記』を『冠山老公筆記 ほどくほ小僧前世話』や『兒子再生前世話』とは別のものと考えている。
- 9) Stevenson (1974, 1975, 1977, 1980, 1983, 1997, 2000, 2003) 参照。
- 10) 池川 (2007, 2009, 2010) を参照。

参考文献

- 池川明 (2007) 『子どもは親を選んで生まれてくる』東京：日本教文社。
- 池川明 (2009) 『ママ、生まれる前から大好きだよ』東京：学習研究社。
- 池川明 (2010) 『ママを守るために生まれてきたよ』東京：学習研究社。
- 北村澄江 (2008) 「小泉八雲『勝五郎の転生』をめぐる研究課題について」『日野市郷土資料

- 館紀要』第3号(通巻第11号), 14-23.
- 小谷恵造 (1990) 『池田冠山伝』東京: 三樹書房.
- 染村絢子 (1996) 「『勝五郎再生記』の原典『ほとくほ小僧前世話』」『へるん』33, 76
- 平田篤胤著・子安宣邦校注 (2000) 『仙境異聞・勝五郎再生記聞』東京: 岩波書店.
- Hearn, Lafcadio (1897) "The Rebirth of Katsugoro," *Gleanings in Buddha-Fields: Studies of Hand and Sould in the Far East*. Boston and New York: Houghton, Mifflin and Company, 267-290.
- Leininger, Bruce and Andrea Leininger with Ken Gross (2009) *Soul Survivor: The Reincarnation of a World War II Fighter Pilot*. New York: Grand Central Publishing.
- Stevenson, Ian (1960a) "The Evidence for Survival from Claimed Memories of Former Incarnations: The Winning Essay of the Contest in Honor of William James, Part I: Review of the Data," *Journal of the American Society for Psychical Research* 54, 51-71.
- Stevenson, Ian (1960b) "The Evidence for Survival from Claimed Memories of Former Incarnations: The Winning Essay of the Contest in Honor of William James, Part II: Analysis of the Data and Suggestions for Future Investigation," *Journal of the American Society for Psychical Research* 54, 95-117.
- Stevenson, Ian (1974) *Twenty Cases Suggestive of Reincarnation* (2nd revised edition). Charlottesville: University Press of Virginia.
- Stevenson, Ian (1975) *Cases of the Reincarnation Type, Vol. I: Ten Cases in India*. Charlottesville: University Press of Virginia.
- Stevenson, Ian (1977) *Cases of the Reincarnation Type, Vol. II: Ten Cases in Sri Lanka*. Charlottesville: University Press of Virginia.
- Stevenson, Ian (1980) *Cases of the Reincarnation Type, Vol. III: Twelve Cases in Lebanon and Turkey*. Charlottesville: University Press of Virginia.
- Stevenson, Ian (1983) *Cases of the Reincarnation Type, Vol. IV: Twelve Cases in Thailand and Burma*. Charlottesville: University Press of Virginia.
- Stevenson, Ian (1997) *Reincarnation and Biology: A Contribution to the Etiology of Birthmarks and Birth Defects* (2 vols.). Westport, CT: Praeger.
- Stevenson, Ian (2000) *Children Who Remember Previous Lives: A Question of Reincarnation* (revised edition). Jefferson, NC: McFarland.
- Stevenson, Ian (2003) *European Cases of the Reincarnation Type*. Jefferson, NC: McFarland.
- Tucker, Jim (2000) "A Scale to Measure the Strength of Children's Claims of Previous Lives: Methodology and Initial Findings," *Journal of Scientific Exploration* 14, 571-581.
- Tucker, Jim (2005) *Life before Life: A Scientific Investigation of Children's Memories of Previous Lives*. New York: St. Martin's Press.
- Tucker, Jim (2008) "Ian Stevenson and Cases of the Reincarnation Type," *Journal of Scientific Exploration* 22, 36-43.